

報道関係各位

2012年7月25日

株式会社博報堂DYメディアパートナーズ

小学生の8割強がパソコンを利用。高学年女子の携帯電話所有率は6割。 ～小学生のメディア行動に関する調査報告～

株式会社博報堂DYメディアパートナーズ メディア環境研究所(東京都港区、所長:吉田弘、以下メディア環境研究所)は、1都3県(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)の小学生のメディア接触や生活実態に関する調査を行いました。

今回の調査で、小学生のパソコンや携帯電話の利用の低年齢化が一層進み、小学生の8割強がパソコンを利用し、約4割が携帯電話を所有していることがわかりました。

2012年度、小学生は2000年以降生まれのゼロ年代キッズとなりました。また、2000年はブロードバンドが普及し始め、家庭のパソコンも常時接続が始まりました。この調査は、そのような環境の中で生まれ育った小学生のメディア接触を把握することで、今後のメディアの方向性を予測するために実施したものです。

博報堂DYメディアパートナーズは今後も生活者のメディア接触や生活行動を調査・分析し、変化の兆しを発見することで、コミュニケーションプランニング力を強化し、メディア・コンテンツの価値を高めることにチャレンジしていきます。

トピックス

●パソコン利用率80. 8%。31. 3%が小学校入学前から利用。利用内容は、「ネット」「ゲーム」「動画」。

PCの利用内容では、56. 9%が「インターネットをする(web サイトを見る)」。「ゲームをする」が39. 2%。また、「YouTube やニコニコ動画などで動画を見る」は38. 4%にのぼり、高学年(5~6年生)のパソコン利用者の約半数(44. 8%)が動画を見ています。パソコンで動画を閲覧する行動は、小学生にも広がりつつあります。

●携帯電話所有率37. 2%。高学年女子では、59. 0%。利用内容は、「通話」「メール」がメイン。

小学生の4割近くが携帯電話を所有していますが、主な利用内容は「通話」(93. 3%)、「メール」(75. 8%) となっており、ネット利用はまだ少ないので現状です。また「写真・ムービーをとる」が33. 6%と、カメラ機能も利用しています。

●ポータブルゲーム機利用は73. 3%。ゲームのほかに「カメラ機能」も活用。

ポータブルゲーム機では、ゲームのほかにカメラ機能が主な使い方となっています。35. 7%が「写真をとる・みる・集める」と答えるなど、ポータブルゲーム機のカメラ機能を活用しています。

●小学生のメディア・コンテンツ接触時間は、「テレビ」が最も多く、次いで「ゲーム」、「本」、「パソコン」。

メディア・コンテンツ接触時間は、「テレビ」116. 0分、「ゲーム」47. 9分、「本」25. 8分、「パソコン」25. 7分。高学年になるほど総接触時間は増えています。

●年間で小学生が家族や親戚からもらうお金は、24, 453円。月々のお小遣いは必要に応じてもらう。

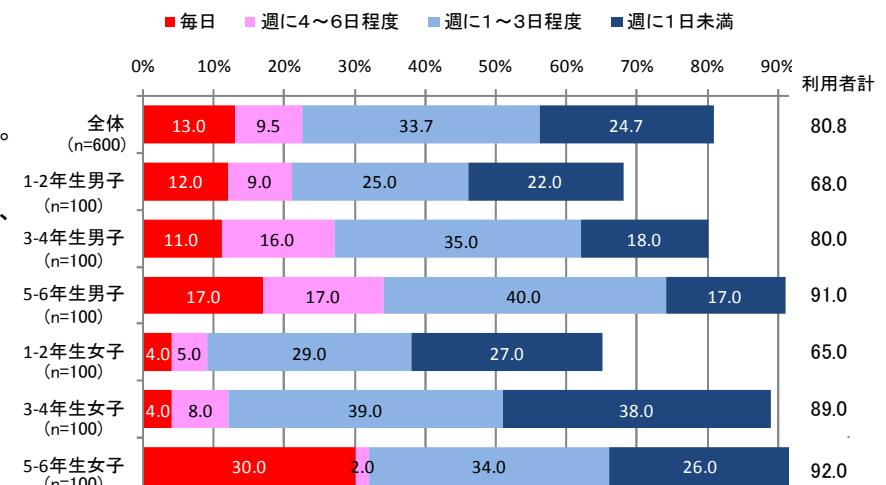
月々のお小遣いは「必要に応じてもらっている」が約半数にのぼります(43. 8%)。お年玉など年間で小学生が家族や親戚からもらう金額は、24, 453円。用途は、貯金のほかに、男子はゲーム関連、女子は文具、飲食品となっています。

■主な調査結果(メディア編)

1)パソコン

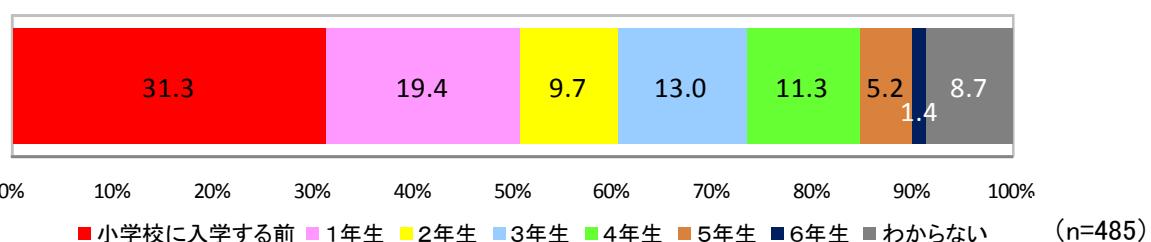
・パソコンの利用状況

小学生の80.8%が、パソコンを利用しています。学年があがるにつれ利用率は高くなり、5-6年生男子・女子では、それぞれ、91.0%、92.0%がパソコンを利用。また、5-6年生女子では、30.0%が毎日パソコンを利用しています。



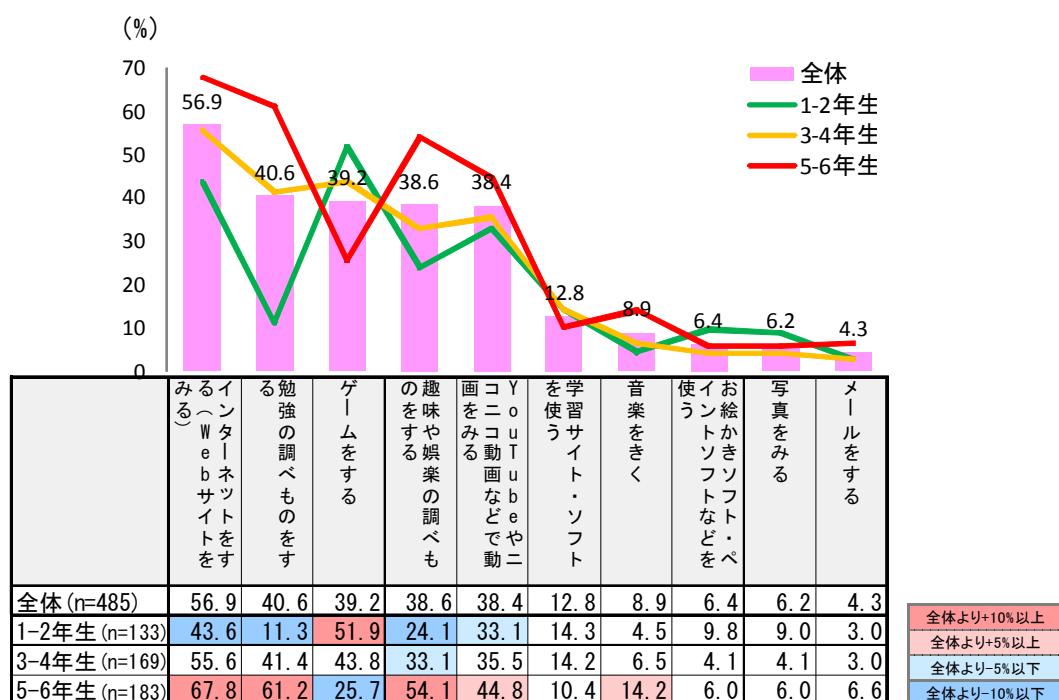
・パソコン開始時期

小学校入学前からパソコンを利用しているケースが最も高く、31.3%。また小学1年生まで利用する人が全体の半数以上(50.7%)を占めています。



・パソコンの利用内容

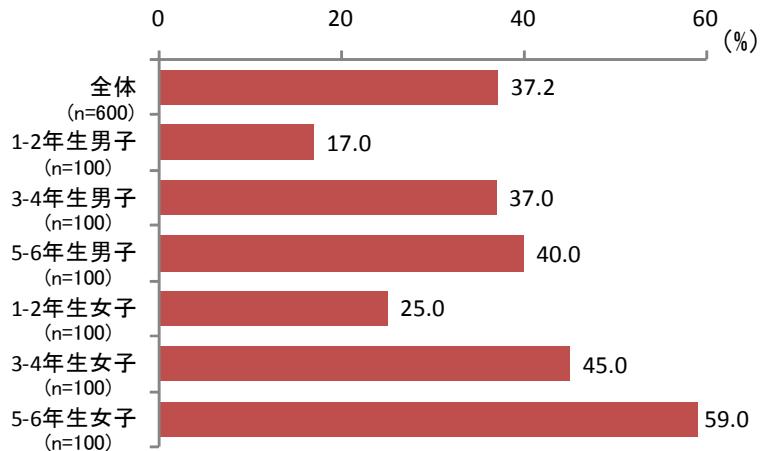
利用内容の上位10位をみてみると、インターネットのほかに、ゲームや動画視聴が上位を占めています。ゲームは1-2年生で利用が高いのに対し、勉強や趣味娯楽の調べ物、動画視聴は5-6年生で高くなっています。



2) 携帯電話

・携帯電話の所有状況

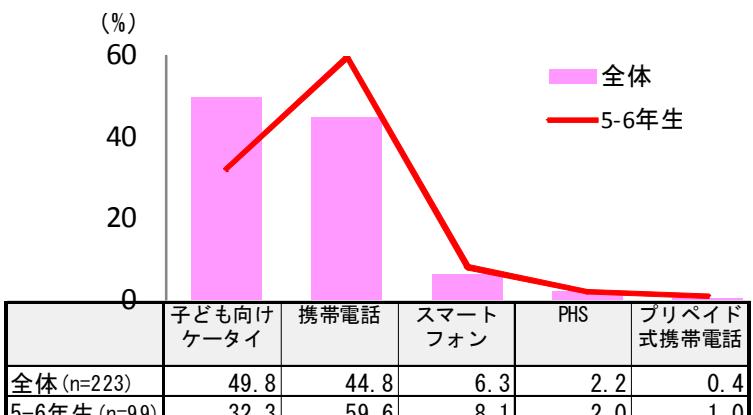
携帯電話の所有率は全体で、37.2%。女子の所有率が高く、5-6年生女子では6割近く(59.0%)が携帯電話を所有しています。



・携帯電話機種

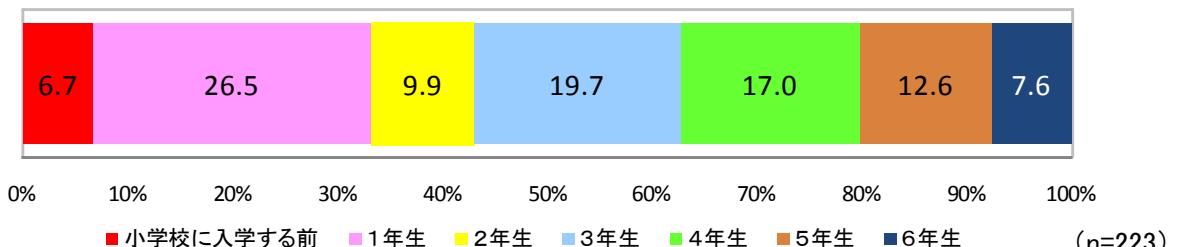
小学生全体では、約半数(49.8%)が「子ども向けケータイ」を所有しており、「携帯電話(子ども向けケータイ、スマートフォンを除く)の所有」(44.8%)を上回っています。

高学年(5-6年生)に関しては、6割近く(59.6%)が「携帯電話」を所有しており、「子ども向けケータイ」(32.3%)を大きく上回っています。



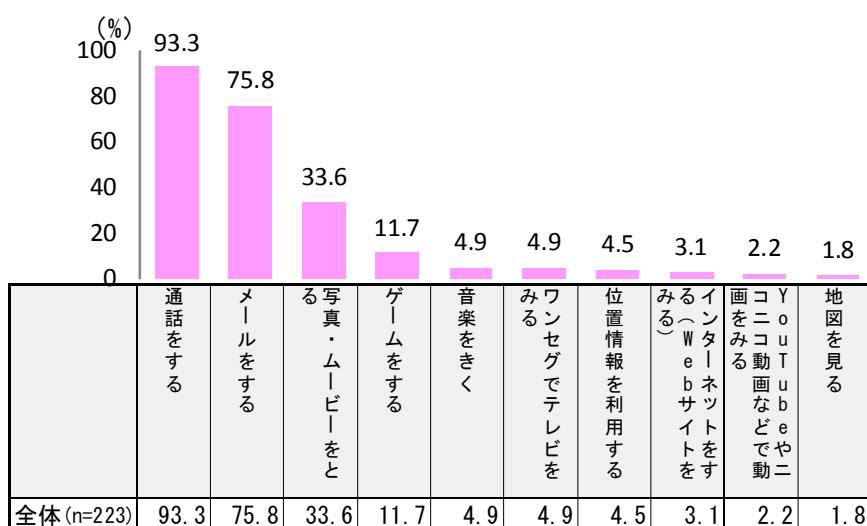
・携帯電話所有開始時期

現在の小学生の携帯電話所有開始時期は、「1年生」(26.5%)と、「3年生」(19.7%)で持ちはじめるケースが多くなっています。



・携帯電話の利用内容

主な携帯電話の利用内容は、「通話」と「メール」の基本機能となっており、小学生の間でのネット利用はまだまだ僅少です。また、33.6%は「写真・ムービーをとる」など、カメラ機能も活用しています。

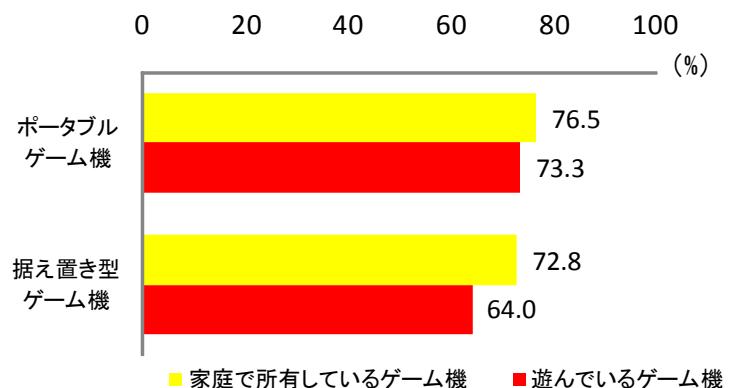


3) ゲーム

・ゲーム機の利用状況

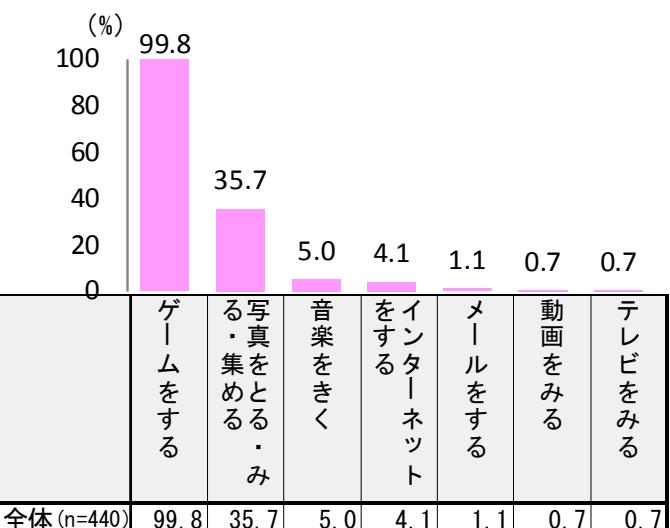
小学生がいる家庭ではポータブルゲーム機、据え置き型ゲーム機の所有率が、それぞれ76.5%、72.8%となっています。

また実際に小学生が遊んでいるゲーム機では、「ポータブルゲーム機」73.3%、「据え置き型ゲーム機」64.0%と、ポータブルゲーム機でより遊んでいることがうかがえます。



・ポータブルゲーム機の利用内容

ポータブルゲーム機では、「ゲームをする」(99.8%)のほかに、「写真をとる・みる・集める」(35.7%)などカメラ機能も利用しています。

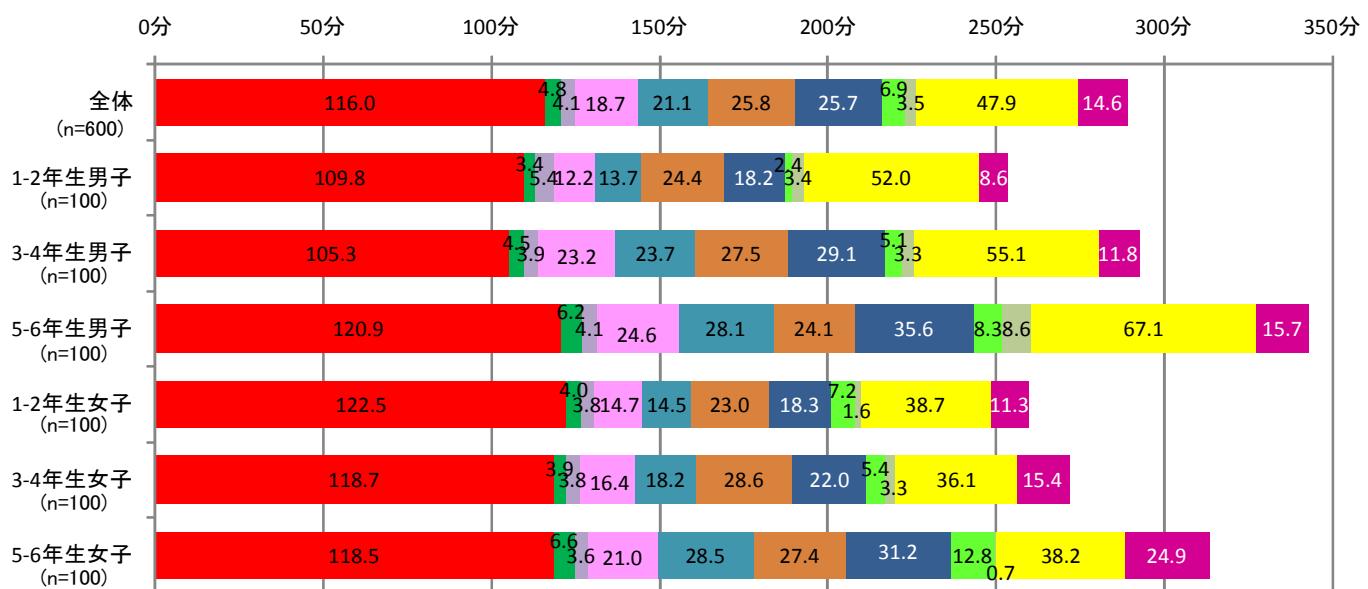


(参考) メディア・コンテンツ接触時間

小学生の1日あたりのメディア・コンテンツ接触時間は、「テレビ」が最も多く(116.0分)、次いで「ゲーム」(47.9分)、「本」(25.8分)、「パソコン」(25.7分)となっています。

高学年になるほど総接触時間は増えていますが、中でも「雑誌・コミック誌」「マンガ(単行本)」「パソコン」「音楽」の接触時間が、学年が上がるにつれ大きく増えています。

■ テレビ ■ 新聞 ■ ラジオ ■ 雑誌・コミック誌 ■ マンガ(単行本) ■ 本 ■ パソコン ■ ケータイ ■ タブレット端末 ■ ゲーム ■ 音楽

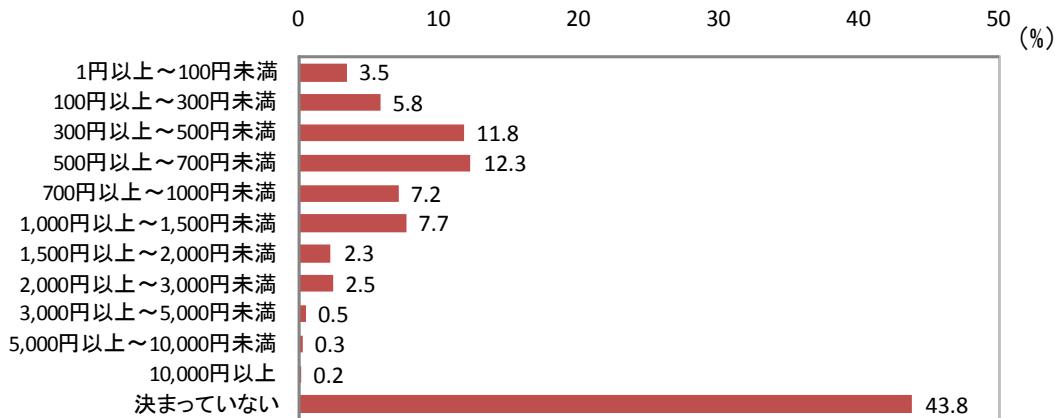


■主な調査結果(生活編)

1)お小遣い

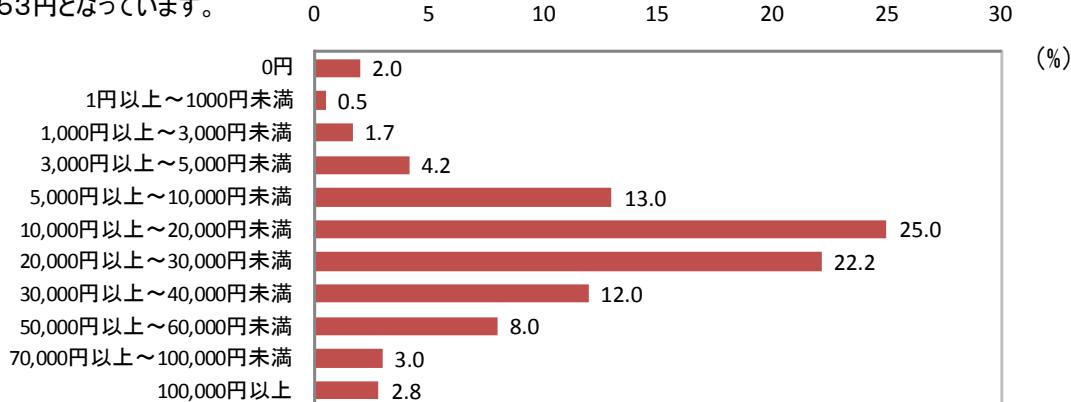
・月々のお小遣い

月々のお小遣いは「決まっていなく必要に応じて渡している」(43.8%)が最も多くなっています。金額が決まっているケースでは、「500円以上～700円未満」(12.3%)が最も多く、次いで「300円以上～500円未満」(11.8%)となっています。またお小遣い額が決まっている小学生の平均お小遣い額は、454円となっています。



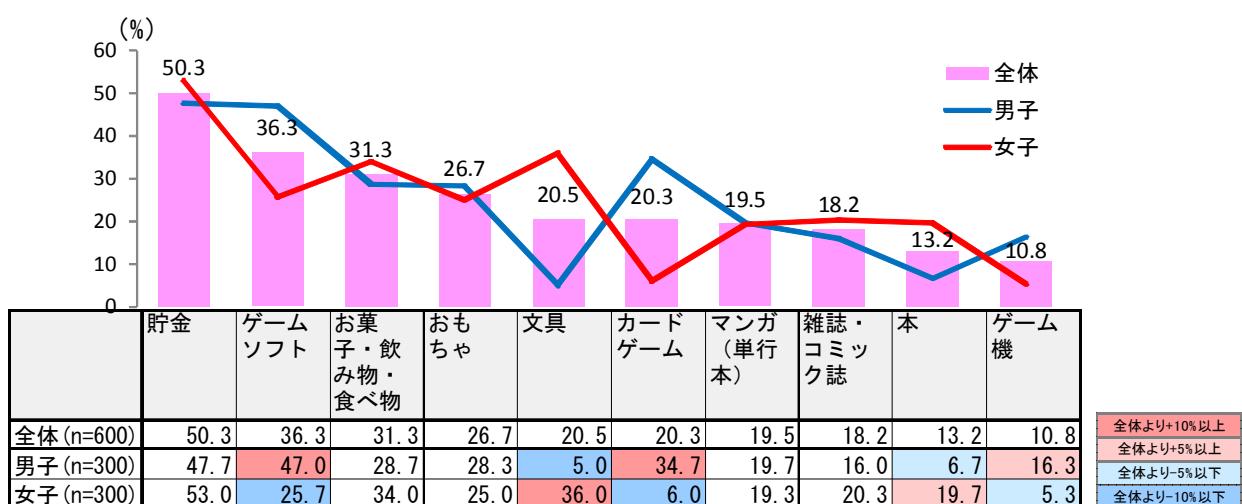
・年間に家族・親戚などからもらう金額

1年間で小学生がもらう金額(月々のお小遣い以外)は、「10,000円以上～20,000円未満」が最も多く、全体の25.0%を占めています。次いで、「20,000円以上～30,000円未満」(22.2%)となっています。平均では24,453円となっています。



・お小遣いの用途

お小遣いの用途は、「貯金」が男女ともに最も多くなっており、半数強(50.3%)が貯金をしています。その他の用途では、男女差が大きく、男子は、「ゲームソフト」(47.0%)「カードゲーム」(34.7%)などゲーム関連にお金を使っていますが、女子は「文具」(36.0%)「お菓子・飲み物・食べ物」(34.0%)に使っています。



■調査概要

- 調査対象者: 小学1~6年生の男女とその保護者
- 調査地域: 1都3県（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）
- サンプル数: 600サンプル
- 調査手法: インターネット調査
 - 小学生の子どもがいる保護者を対象に調査を行い、設問項目は、保護者向けの設問と子ども向けの設問で構成。保護者への設問は保護者が回答、子ども対象の設問は、保護者同伴のもとで、保護者のサポートを受けながら子どもが回答する方式で実施。
- 調査時期: 2012年2月17日(金)～2012年2月21日(火)
- 調査企画実施: 博報堂DYメディアパートナーズ
- 調査実施機関: 株式会社バルク

■この件に関するお問い合わせ先

博報堂DYメディアパートナーズ 広報グループ 山崎・加藤 03-6441-9347
メディア環境研究所 中杉・馬場 03-6441-9713